

双松会会報

第四号(「双松」通巻11号・「松高北高同窓会報」通巻第13号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ②4888・③3633
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ③3000



ご挨拶

会長 柴田 午郎

母校の赤山復帰後、大グラウンドの完成が遅々として進まぬことが気がかりだが、その他の環境整備は着々と進んでいる模様で、今後はその外形的なこともより、師弟ともども、その精神的・内面的充実こそ急務であろう。

というのには、青少年の非行問題を頂点とする六・三・三制の問題など、ジャ・ナリズムの取上げる教育問題は多い。いかにして生徒を指導するかについて、私のようなその方面の素人は言うべき言葉を持たないが、「二本松」だ、「質実剛健」だというのが、表現は古いが、その精神までが、世相におかれてしまつたという訳ではあるまい。

野球など、スポーツの振興に努力して、学校内外の精神的高揚をはかるのも一方法。生徒の進学率向上によつて精神的なもの高まりを期待するのも亦一方法。しかし私にはもともと根本的な問題が存在するよう気がしてならない。言葉が適当でないが、それは「日本人の総サラリーマン化」と

でもいへば傾向である。文部官僚は、その意図する行政がやりやすいように、なるべく教師諸君が従順なサラリーマンであることと願っているであろうし、また経済界においても、気骨あるワンマン社長よりも、サラリーマン社長の方が歓迎される現代であろう。

昔は固い拳骨のような先生がいて、生徒にも人気があり、精神的な支えにさえなっているという人物が居たものだが、このような先生は、文部行政の邪魔物として、追々数少なくなつていってしまつた。以前には若い教師時代から定年まで、数十年を同一学校に勤務する拳骨先生が、一人や二人は存在された記憶があるが、今はそれも許されぬかもしれない。

終戦後四十年近い平和な時代といふものは、明治以来考え得ない程の期間であるが、平和の続くことは、反面、特に教育上にもつつかしい問題の起る可能性のあることは論をまたない。

ましては、教職員、生徒がそれぞれ自己の限界に向かって最善の努力をしました結果、大学入試も前年以上の成果をあげ、一人の落伍者もなく四五名の卒業生を送り出すことができた。これも偏に本校百有余年の歴史と伝統がもつ教育的な重みによるものと考え、感謝にたえません。

本年度も出発にあたって、生徒とともにこの伝統を再確認し、学習や部活動に全力をあげることによって人間の立派に成長することを誓いました。去る六月に開催された県高校総合体育大会には、四〇〇余名の選手団を送り、九年ぶりの総合優勝を果すことができた。この中から八月月上旬に行われるインターハイに出場する選手達も、母校の名誉と青春のよき思い出のために精一杯戦つてくれることを祈っています。

また、恒例の行事として定着しつつある北高定期演奏会も、先月県民会館大ホールに満員のお客さんをお迎えして盛大に開催することができました。素晴らしい合唱や吹奏楽に会場は拍手と歓声のつばと化し、生徒達に大きな励

ともかくむづかしい時代になったものだが、こうした時代をのりきる方法が、今後の大きな課題だとも思う。われわれ卒業生も、ともども力を合わせて、百年の歴史をもつ松江北高校の精神的充実を期したいものである。

「飛濤亭」(仁和寺の草庵茶屋)の縮尺模型を御寄贈いただく

御寄贈いただく

山根誠氏(近畿双松会会長・四十六期)より、和紙と特殊な糊を使って御製作になった「飛濤亭」を御寄贈いただきました。御作は屋根の葉一本にいたるまで、全て紙であるとは思われぬほど精巧をきわめ、目をみはる出来ばえです。長い時間をかけ、心血を注いでお作りになったことと、教職員一同感謝しております。去る三月末、声屋の自宅に参上し折、氏から直接、ご苦心のほどをうかがいました。母校に寄せられました先輩のご厚情を感謝して、末長く起雲館に飾らせていただきます。

第21回総合体育大会で

輝く男女総合優勝を達成

赤山健児の意気を遺憾なく発揮

第21回島根県高等学校総合体育大会は、庭球・陸上競技などが六月三日から、バレー・柔道・水泳などが六月十日から島根県下一円を会場として開催されました。

この大会をめざして連日の猛練習に耐えてきた北高四〇〇余名の選手団は日頃の練習の成果を十分に発揮し、各競技において連日すばらしい健闘を示しました。

その結果、九年ぶり六度目の男女総合優勝を手中に収めました。特に今回は第二位の学校に大差をつけての堂々の優勝であり、文武両道という赤山精神を裏証したものと高く評価されます。

六月十四日には優勝報告会を行い、教職員、生徒一同一緒になって優勝の喜びをかみしめました。成績の詳細については、第三面に掲載されています。

松くい虫

県西部を襲った「五八」七山陰集中豪雨。死者、行方不明者あわせて一〇七人、被害総額三千億円を超える大災害であった。被災者の皆様に對して心から御見舞い申し上げます。あわせて一日も早い復旧をお祈りします。▼今春、島大の東の丘陵に松江東高(普通科 一学年八学級)が開校。三六年来に松江南高が開校して以来本県ではじめての新設校。毎年数校ずつ新設されている過密地域と比較すれば格段の差。島根はそれだけ落着いた環境で勉強しているともいえる。▼東高の開校により北高の学区は、今年の入学生から大幅な変更があり、松江市の内中原・城北・白濁・朝日・法吉・生馬・古江・長江・大野・秋鹿・中島小校区と八東郡の鹿島町全域となった。六〇年から雑賀小校区が加わる。▼西川津の旧校舎の南側、堀に面した柳の並木がわずかに往時の名残りをとどめていて、このあたりは帰省した卒業生であらうか、ときどき子供連れの姿をみかける。▼わが青春の思い出も語っているのだから、ほほえましい姿である。▼天に氣を吐く二本松。緑まます深く、紅岳山頭にとどろりと鎮座します。生徒の意気軒昂なるのも双松の無言の教への贈物か。マツノマダラカミキリの猛威から守るため、消毒に消毒を重ね必死の防衛、天敵が出現するまでは全力を尽して守り抜かねばと、三浦校長陣頭指揮。▼文武両道。青春のエネルギーを学力の向上と心身の鍛錬(部活動)に注ぎ、これが松中以來の伝統。今年の高松総合体育大会で六度目の男女総合優勝。大学進学の数績も極めてよい。伝統は守るものでなく、発展向上させるもの。松江氣象台が始まって以來の連日の猛暑の中、生徒達は勉強に部活動に励んでいる。

伝統に生きる

学校長 三浦 喜登

昨年の今頃は、国体のことで頭が一杯、夏のむし暑さも忘れるほどでした。それにくらべて今年、学校も随分落ち着いて、時折松の木の間を通り抜けてくるさわやかな風に、赤山に勤める幸せすら感じるゆとりがあります。会員の皆さん、お元気で活躍のことと存じます。昨年は各地の双松会にお招きをいただき有難うございました。母校に寄せられる皆さんの温かいお気持ちに接し、心から感謝いたしますと同時に、ご期待に応えるべき責務の重たさをあらためて感じました。

ご承知のように、選手や式典係あるいは補助員として全校あげて参加しました。くびき団体も大成功に終わりました。しかしながら、長期間にわたる諸行事への参加のため危惧しました学習面につき

ましては、教職員、生徒がそれぞれ自己の限界に向かって最善の努力をしました結果、大学入試も前年以上の成果をあげ、一人の落伍者もなく四五名の卒業生を送り出すことができた。これも偏に本校百有余年の歴史と伝統がもつ教育的な重みによるものと考え、感謝にたえません。

また、恒例の行事として定着しつつある北高定期演奏会も、先月県民会館大ホールに満員のお客さんをお迎えして盛大に開催することができました。素晴らしい合唱や吹奏楽に会場は拍手と歓声のつばと化し、生徒達に大きな励

第16回 近畿松高北高同窓会総会のご案内

松江で学んだ青春時代を師や友と出雲弁で語り合う会にしましょう。ご連絡もれの方も多数あろうかと思っておりますので、皆様おさそいの上気軽にお出かけ下さい。

昭和58年9月11日(日)午後0:30~2:30
ホテル阪神・15階サファイアの間 TEL(06)344-1661
ところ 男性の方(S25~51年卒).....6,000円
(S52~58年卒).....4,000円
女性の方.....4,000円
お願い 準備の都合もありますので9月5日(月)までにご出席の有無を事務局までお知らせください。
〒589 南河内郡狭山町西山台5-1, 7-505
真庭 功(15期) TEL(0723)66-2554



昭和五十八年度 第一回役員会開催さる

今年度の役員会は、常任監事約七十名の内、五十余名の出席を得て、六月三日、一文字屋ホテルで開催された。

役員氏名(敬称略)

Table with columns: 氏名, 期. Lists board members including 柴田午郎, 森脇善夫, etc.

昭和57年度 会務報告

57年 5月21日 役員会(一文字屋ホテルにて) 会務報告・昭和56年度会計決算...

寄稿 柔道部初優勝にゆづり

昭和五十三年春、母校北高が赤山の地に還つた機会に、多年の念願であつた松中・松高・北高の三代に亘る柔道部を一本の絆で結ばうと、千之会を...

五十四年清井高志先生(東大教官)・五段、五十二年青森国体教員の部で、天理大の奈良県を破り初のベスト8入り...

昭和58年度 双松会会計予算

昭和58年6月3日 双松会事務局

Income statement table for 昭和58年度 with columns: 費目, 予算額, 前年度予算額, 増減(△), 説明.

昭和57年度 双松会会計決算書

収入総額 3,166,413 支出総額 2,469,915 残 696,498

Income statement table for 昭和57年度 with columns: 費用, 予算額, 決算額, 増減(△), 説明.



鳥根県高校総体 柔道競技優勝記念 S58.7.3

となく、ひたむきに精進を重ねて得たこの優勝は素晴らしいものであり、惜しめない賞賛を送るものである。七月三日、優勝祝賀会。東京から山根富雄先輩(十五年卒松中六十期)が帰省され...

七十歳代の人々が集い、事に当ることである。おのすから話題も豊富であり、含蓄のある話もあれば抱腹絶倒の珍談あり、多士済済の機能集団である。我々は多年の念願が叶って有頂天で...

△昭和二十五年は黒田方辰を主将に全国制覇を目指し、大型選手によるクルー編成を狙ったが成らず。湯浅義男コーチは大先輩の井上伝助氏に指導を依頼して、僅か一日でコンスタントピッチを二十四から二十八に上げ、ピッチ漕法で軽量クルーの弱点を補うことに成功した。

百年史補遺(三)

漕艇部(その二)

△昭和二十五年は黒田方辰を主将に全国制覇を目指し、大型選手によるクルー編成を狙ったが成らず。湯浅義男コーチは大先輩の井上伝助氏に指導を依頼して、僅か一日でコンスタントピッチを二十四から二十八に上げ、ピッチ漕法で軽量クルーの弱点を補うことに成功した。

翔ける赤山精神

総体で九年ぶり六度目の男女総合優勝

くにびき国体の開催にもなつて国体選抜チームの編成上、得点制度が一年中断された高校総合体育大会は六月上旬に開催されましたが、北高からは四〇〇余名の選手がこれに参加しました。これに先立ち、六月一日には壮行式を行い、三浦校長より出場選手に対し、一昨年の三位に甘んずることなく栄冠をめざして健闘を期待する旨激励のことばがあり、先代会長からも千百余名の生徒を代表して激励の挨拶がありました。

出場選手はよくこの期待にこたえ、柔道部団体、男子バレー部の初優勝をはじめ、各種目において実力を遺憾なく発揮し、九年ぶり六度目の男女総合優勝を手に入れました。

この内、陸上、軟式庭球、硬式庭球、バレー、柔道、ホート、水泳、アーチ、エリーの四十九名の選手は、八月上旬に愛知県を中心に開かれたインターハイに出場しましたが、強豪を相手に全国に松江北高の名を広めてくれる活躍をしてくれました。

総合体育大会での成績の詳細は左記のとおりです。

男女総合成績	第一位(71点)	吉岡
女子総合成績	第一位(56点)	大塚
女子総合成績	第十位(15点)	青山
男子四〇〇M	二位	青山
男子一〇〇MH	五位	青山
男子一六〇〇MR	五位	青山
走幅跳	四位	青山
三段跳	四位	青山
女子八〇〇MH	三位	青山
女子一〇〇MH	三位	岩本
女子一〇〇MH	三位	岩本
やり投	優勝	福間
円盤投	二位	福間
砲丸投	四位	福間
走幅跳	四位	岩本
走幅跳	五位	岩本
軟式庭球部	二位	岡田・河本
男子団体	三位	岡田・河本
男子ダブルス	二位	岡田・河本
男子ト部	二位	岡田・河本
男子SF	優勝	岡田・河本
男子SS	優勝	岡田・河本
女子KF	優勝	岡田・河本
女子SF	優勝	岡田・河本
女子SS	優勝	岡田・河本
女子KF	優勝	岡田・河本

バドミントン部	二位	立嶋、高杉
男子ダブルス	ベスト8	山根、多久和
女子ダブルス	二位	金築
男子団体	四位	金築
女子団体	四位	金築
硬式庭球部	優勝	本多、渡部
男子ダブルス	三位	渡辺
男子団体	三位	渡辺
女子団体	三位	渡辺
シングルス	優勝	佐川
男子	二位	佐川
女子	二位	佐川
バレー部	優勝	藤原
男子	優勝	藤原
女子	優勝	藤原
サッカー部	ベスト8	井上
男子	優勝	井上
女子	優勝	井上
柔道部	優勝	大谷
男子	優勝	大谷
女子	優勝	大谷
個人(重量級)	優勝	大谷
個人(軽重量級)	優勝	大谷
個人(中量級)	三位	石原
個人(軽量級)	三位	石原
バスケットボール	二位	山内
男子	二位	山内
女子	二位	山内
弓道部	ベスト8	山口
男子	ベスト8	山口
女子	ベスト8	山口
水泳部	二位	長見
男子一〇〇M自由形	四位	長見
男子二〇〇M自由形	四位	長見
男子四〇〇M自由形	四位	長見
男子一〇〇M平泳ぎ	五位	塩治
男子二〇〇M平泳ぎ	五位	塩治
男子四〇〇M平泳ぎ	五位	塩治
男子一〇〇M背泳ぎ	五位	塩治
男子二〇〇M背泳ぎ	五位	塩治
男子四〇〇M背泳ぎ	五位	塩治
男子一〇〇Mバタフライ	五位	塩治
男子二〇〇Mバタフライ	五位	塩治
男子四〇〇Mバタフライ	五位	塩治
個人メドレー	五位	塩治
男子四〇〇M	優勝	竹部
男子八〇〇M	優勝	竹部
男子一六〇〇M	優勝	竹部
男子三二〇〇M	優勝	竹部
男子自由形	優勝	竹部
男子平泳ぎ	優勝	竹部
男子背泳ぎ	優勝	竹部
男子バタフライ	優勝	竹部
個人メドレー	優勝	竹部

今春の進路状況

今春の卒業生の進路状況は別表の通りです。健闘よく、赤山健児の意気を実剛健を体し、文武両道を見事に実践した諸君も沢山います。北は北海道から南は鹿児島までを征する全国区の北高であり、今年も東大を始め、難関国立大に例年に劣らぬ合格者を出し、特に阪大合格者は七名から十名にのびました。相変らずきびしい国立大医部学にも十九名が合格して進学しています。

共通一次テストが導入されて以来、国立離れが話題になっていますが、北高は国立基調、私立の併願者も逐年減少傾向を示し、そのぶんだけ私立合格者数も下降しています。但し、有名私立大合格者は例年を上回る勢いを示し、早稲田大には五名増の二十七名が合格しました。「私大離れ」私立大の難化は止まるどころを知りません。それをほねのけた健闘は立派です。

短大合格者百二十三名、各種学校、特に女子の看護学校合格者は二十一名、この方面の進学希望者も年々ふえて

第五回定期演奏会を終えて

音楽部顧問 勝部 俊行

早いもので、北高定演も今年で五回目。何もわからず、ただ無我夢中で開いた第一回定演からみるとようやく軌道に乗って来たところ。

この五年の間に、合唱部・吹奏楽部・筆曲部とも、その力を着実に伸ばし、県を代表する部に成長して来たと思うのは、決して私だけの欲目ではないと思う。そういう意味で今回の定演には何か周囲の熱い「期待」といったものが感じられた。

今回はショスタコフウィッチの交響曲第五番、野田暉行の合唱組曲「青春」、筆曲部の「日本民謡メドレー」等、やや難かしい曲が多かったのだが、生徒はそれぞれ見事に表現してくれた。中でも、委嘱作品(帆村莊児作詞、小林昭三作曲)の「風土記の丘」には、松江に因んだ作品ということもあり、どの曲にも増して感動的な表現が出来たように思う。

今後、更に飛躍すべく頑張る所存、あたたかい声援を願う。

	55年3月			56年3月			57年3月			58年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大	188	62	250	157	45	202	185	50	235	175	61	236
公立大	7	6	13	8	4	12	7	6	13	14	5	19
私立大	263	183	446	207	173	380	124	145	269	171	137	308
短大	100	11	111	120	4	124	87	7	94	122	1	123
その他	44	3	47	38		38	35	1	36	42	2	44
合計	602	265	867	534	224	758	528	209	737	524	206	730

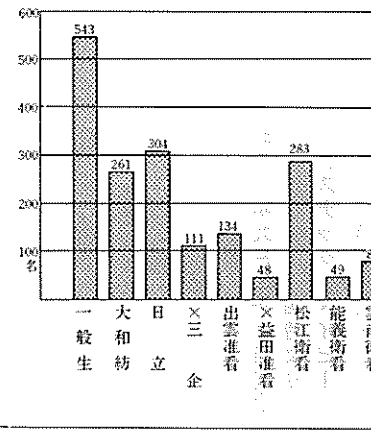
就職希望者十九名、国家公務員三名、地方公務員一名、鳥取、協和銀行等、地元金融機関を始め各種企業に全員就職していきましが、女子が大半を占める就職希望者は全員市内勤務を望んでいましたので、第一希望の職種が必ずしもかなえられない苦衷があります。卒業生の皆様の御支援、御指導を切にお願いする次第です。卒業生の皆様の御発展、御活躍心からお祈りします。

通信制

坂本 育穂

※昭和五十八年三月十三日、全日制クラスバンド部及び合唱部の友情応援を得て通信制第二十六回卒業式が行われ、新しく九十九名の仲間を同窓会に迎え、これにより通信制卒業生総数は昭和三十三年の第一期以来一、八一三名となった。

内訳は左のグラフのとおりである。これを男女別に見ると男子に対して



女子が2・37倍で明らかに女性上位である。

※五十八年度の入学生は一般生八三名(転編生を含む)、集団生六一名、合計一四四名だった。同窓生の皆さんに生徒募集をお願いした成果か、入学生も漸増である。

この中、六十九歳の方が入学され、新聞にもとりあげられたりしたが今までは最高齢である。この他にも大正生まれの方が二名もあり、若い者と肩を並べて勉強している通信生ならではの光景がみられる。

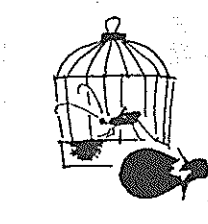
※もうひとつの甲子園「全国定通軟式野球大会はこの会報が手元に渡った頃にはもう結果が決まっていたが、本校は早稲田で松江工業高定時制を1810で降し、今年も記念大会のため中国子選はなく代表となった。精戦の相手は岩手県立杜陵高校である。さていかか相成りましたことか……。

この他全国大会に出場したのはいずれも男子で、バレーボール、卓球(団、個)、剣道(団、個)、柔道(団、個)であった。

※この一年の間で各地区の同窓会が二、三開催された。総会が開かれ、今、大に行つて頂きたい。10人以上一万円、以下五千円の補助が出ることになっている。

事務局(校内幹事)の転出入

(転入)	野津 隆(数学)高7期	岡坂 晴朗(保体)高8期	遠藤 隆康(国語)高13期	福田 正(数学)高18期
(転出)	袖本 重幸(理科)松中65期	高村 芳明(数学)高3期	野津 隆(数学)高7期	大内 紀雄(保体)高11期
	永野 一治(国語)高11期	島田 隆輔(国語)高25期		



各期だより



今回の「各期だより」には、松中五十三期、五十四期、松高北高三期、九期、十八期、二十三期を掲載いたしました。

各期の計画、予定が決まりましたら、双松会事務局宛、一報下さいませますようお願いいたします。

松中五十三期(昭和八年卒)

田辺 彊

昭和五十八年五月十五日(日)正午、赤山二本松下へ集合し、この幹事からの連絡の下、全国より馳せ参じた五十三期生(昭和八年卒)三十二名、五十年振りに会い、禿頭、白髪、黒髪、懐かしい姿が三々五々二本松下へ。

五十周年記念全国大会紀行
「昭和五十八年五月十五日(日)正午、赤山二本松下へ集合し、この幹事からの連絡の下、全国より馳せ参じた五十三期生(昭和八年卒)三十二名、五十年振りに会い、禿頭、白髪、黒髪、懐かしい姿が三々五々二本松下へ。

校長須貝太郎殿の発案により、昭和三年九月、全校生徒悉く選手たれの趣旨徹底のため修養団「赤山健児団」が組織され、九分団を編成し全校生徒大気分を満喫した折のことなど。

田原神社では藤脇宮司殿により慰霊祭が執り行われる。物故者氏名の朗唱、そして各地区代表による玉串奉奠、物故者代表御遺族による玉串奉奠、そして



五十三年生一同の長寿を祈願し、参りて「御守」を拝受する。

特別に末次大火の写真を思いが走る。須貝校長提唱の第三回宗道湖一周、即ち昭和六年五月十六日丁度一周して旧師範学校(現松江一中)の前に差し掛かったとき、「火事だ、火事だ」という声がかかる。東の空が真赤に見える。しかし限られた時間内に入らねば団の成績に關係する。やがて母校へ到着するも、なにぶん五十三キロを走破した体

では動けない。実に六二八戸焼失の大火である。
閉話休題。本筋に入ろう。
五十年の歳月を経て元氣な姿で参会した一同は再び大手前にてマイクロバスの人となる。これより五十年ぶりの松江の発展と昨年県民の総力で獲得した天皇杯、皇后杯の活躍の場を見る。先ず県立プール、総合体育館より中海を経て大根島へ、中浦水門より境水道大橋上よりはるかに大山、日本海を見らる。ボート会場、島根大学前よりくびき大橋を渡り、松江総合運動公園に至る。会員の中には旧明治神宮大会現(団体)やインターミドル(現高体連)等で活躍した者が多く、過ぎし昔を懐かしむ。やがて車は当日の会場臨水亭へ到着。先ず総会を行い、会則の審議、役員を選出。三浦校長殿より、「北高の現況」を聞く。終わって開宴となり、出席者の近況報告の途中、松江微一行の演芸が始る。故宮田隆氏作詞、松江微歌唱により最近ビクターより発売の松江夜曲踊り披露され、クライマックスに至る。酔う程に昔の懐かしい思い出が尽きない。最後に石倉悦君(日赤院長)の音頭により、「万才の三唱で閉会」となる。今後毎年開催するので来年の再会を約束して散会。握手の連発。

松中五十四期(昭和九年卒)

泉 周吉

五十四期松中九会の皆様へ
来年は卒業五十年を迎えますので、世話人一同よりよい協議をして、次のような大会の計画をしております。決定次第それぞれ案内致しますが、多数のご参加を期待しております。

- 一、日程 五十九年五月中旬か下旬
一、場所 松江市西茶町 水明荘
一、赤山二本松に集合して市内見物のち、水明荘にて宴会・宿泊のち翌日解散の予定

病療養中の方、夫人が療養中で看護に献身している方、障害者のため素破らしい奉仕をしている方、それなりに年金生活を楽しんでいる方、世話人まで近況をお寄せ下さいれば、来年の大会に小冊子にまとめて見たいと思っております。
松中九会 世話人
伊藤松三・岩坂慶藏・小村 宏
吉岡秀一・泉 周吉

松高北高三期(昭和二十七年卒)

郷原(川上)明子

三十周年記念同窓会を終えて
同期七百余名で松江高校を巣立ってや三十二年、息子や娘が今昔の思いを抱かせる年頃となりました。

戦後の学制改革の中で、私どもの高校生活は赤山と川津の二つの校舎に分れて始まりました。二年の秋、川津校舎に統合され、赤山健児はすこすこと山を下りて揃いました。同期生が一つの校舎に揃ったのは一年半と短かくて見覚えのない方が多く、同窓会も有志で細々と開いてきました。二期(男子のみ)



活動の聞くにつけ淋しい思いをしておりますが、昨年卒業三十周年を記念して同窓会を計画、全員に声をかけて、お盆の一日、県外からの帰郷者を迎えて盛大に開催しました。エレクトーンで盛色をかき消す賑やかさの中で、初老の現実をひと時忘れおさげ髪の昔にかえりました。

松高北高九期(昭和三十三年卒)

小林 忠夫

同窓会のご案内
私も松高を卒業して早いもので、二十五歳の歳月が流れました。その間八回ぐらいは同窓会を催したでしょうか。そのたびに何か、私にめぐり逢うことが出来、何かが、私にたいに思えてなりません。

今回はたまたま、双松会の会報が発行される機会に思われましたので、全国に散りゆくになつて同窓生の皆さんに、紙上を借りて、ご案内出来ることは、誠に有難いことです。つきましては、下記のとおり、松高北高九期同窓会を開催しますので、出席のだけ、多くの方々のご出席をお願いいたします。

その後、松高三期会報を始めて発行、全国各地で御活躍の諸兄弟との連帯を深め、また消息の確認出来ない方々の確認作業を進めているところです。

松高北高十八期(昭和四十二年卒)

福田 正明

花の十八期も今や三十五歳。そろそろ中年といわれる年。私達は成長するにつれていろいろとニックネームをつけられました。「高校四年生(浪人)」「団塊の世代」「ニューファミリー」そして今や「スニーカーミドル」。戦後の社会面に話題を提供してきた世代です。人生七十年とすれば、三十五歳は折り返し点。「さて」といったところです。さて、そこで十八期。母校のデザイン入りの表紙の会員名簿完備。活動のため銀行口座開設。年一回の同窓会は、デパートの広告チラシと間違えるような案内状や、写真入りの同窓会風景が届けられる。今夏の同窓会は「保母さん付き」と、女性参加者のために最大級の配慮で対応。地元「三同窓会」は、これでもかというほど招集があり、飲み、語ります。

現在、わが期から母校教師に二名送り出して、キラリと光るところもみせ

松高北高二十三期(昭和四十七年卒)

庄司 尚史

北海道のY君、仕事は順調でしょうか。九州のI君、研究の方は進んでいますか。その他、大都会や地方で活躍中の二十三期生の皆さん、お元氣のことと推察しております。地元におります我々幹事の至らなきて、近年、同窓会を開催しないこと申し訳なく思っております。二十三期のメンバーも、段々と独身は少なくなって来てますが、北高時代養った、「遊びの精神」を如何なく発揮している会が、地元にはあります。「北高二十三期ゴルフ同好会」がその会として、一カ月に一度のコンペを開催しています。まだまだ空振りやOBの連続で、格調の高いコンペとは言えませんが、二十三期のパワーとなるべく奮闘中です。先輩あるいは後輩に、このような会があれば、対抗戦を企画してみたいと思っております。盆休みを利用して全国から同志が集まっていたら、通称「三三三」の大同窓会コンペも、将来はやりたいと思っております。それまで、腕を磨いて楽しみにしておいて下さい。

あとがき

「双松」第四号の発行準備に追われている最中、五八山陰豪雨の惨状が伝わってきました。会員の中にも被災されたお気の毒な方もいらっしゃると思いますが、復旧されることを祈ります。
・学校は夏季休業中とはいいながら部活動、合宿、夏季演習、模試などで随時教職員、生徒は出校しています。しかし、ふだんとはやはり異なり、赤山の松林で鳴く蟬の声は一層はつきりと耳にひびいてきます。
・ご多用の中で、「双松」第四号にご寄稿、ご協力いただきました会員の皆様、誠に厚くお礼申し上げます。今後も紙面の充実を期さなければなりません。会員の皆様のご叱正をお願いします。また「各期だより」をはじめとして幹事の皆様、近況をお知らせ下さいませ。ように、あわせてお願いいたします。